

## Program

- ◆ 小倉 朗 管弦楽のためのブルレスク  
Roh OGURA / Burlesque for Orchestra
  
- ◆ チャイコフスキー バレエ組曲「白鳥の湖」作品20a  
TCHAIKOVSKY / “Swan Lake” Suite Op. 20a
  1. 情景（第2幕第10番）
  2. ワルツ（第1幕第2番）
  3. 白鳥たちの踊り（第2幕第13番の4）
  4. 情景（オデットと王子のパ・ダクシオン）（第2幕第13番の5）
  5. スペインの踊り（第3幕第21曲）
  6. 情景（第4幕第28番）

- 医療講演：「作曲家の病と音楽」 小林 修三

[ 休憩 Intermission 15 minutes ]

- ◆ チャイコフスキー 交響曲第5番 ホ短調 作品64  
TCHAIKOVSKY / Symphony No. 5 in E minor Op. 64
  - I. Andante-Allegro con anima
  - II. Andante cantabile, con alcuna licenza
  - III. Valse: Allegro moderato
  - IV. Finale: Andante maestoso-Allegro vivace

演奏：湘南鎌倉フィルハーモニック管弦楽団

指揮：木許 裕介

賛助出演：乃羽バレエ団  
バレエ演出・振付：乃羽 ひとみ

[ 感染対策について ]

- ✦ 本日の公演は感染対策を施し実施いたします。ご理解、ご協力賜りますようお願い申し上げます。
- ✦ 終演は16時00分頃を予定しております。  
終演後ホールからご退場の際は、密を避けるようご配慮くださいますようお願い致します。

## ご挨拶

NPO法人 癒しの医療を考える会

理事長 小林 修三

NPO法人癒しの医療を考える会は、「癒しの医療を求めて医療者と患者さんが一体となり、病気を克服していくこと」の実現を目指して、湘南地域を中心に、春と秋の年2回、医療講演と一体となったクラシック音楽演奏会を開催しています。

音楽の持つ力を最大限生かして「明日に生きる勇気と希望を持とう」を合言葉にして活動しています。

おもいやりと共感のある、温かな癒す医療は、組織の肥大化や医療改革に伴って、運営効率をあげなくてはならなくなった今こそ本当に必要です。患者さんの目をみて話すこと、身体に触れること、注意深く選んだ言葉による心地よさや安心感の提供というような基本的なところから始まるはずで、先端医療の推進は「弱者を置き去りにしない」と両立させなくてはなりません。地域でそれぞれの医療施設が協力しあって優しい病院作りを考えていきたいと願っています。

ギリシア神話に出てくる医神はアスクレピオスです。その父親がアポロンで医術と芸術は切っても切れない関係とされ、音楽を通して病を癒す試みがなされていました。コロナ禍の中で人が人に触れ合う機会が少なくなり、コロナでお亡くなりになるよりコロナ関連疾患でなくなる人の方が多くなっている様に感じます。音楽は人類の生命維持装置だと述べたメルケルドイツ前首相の言葉にありますように、忘れかけた心の健康を取り戻さなければなりません。

病院の歴史は6世紀イタリアのモンテカッシーノ修道院がその原形と考えられ、中世の時代には、裏庭で作られた薬草やワインなどが提供され治療薬として用いられていたそうです。パンとワイン、そして暖かな言葉と額に当てられた手の温もりで人々は癒されたとされます。

演奏会は2000年5月から開催され、最初は室内楽でしたが、オーケストラとしては2002年に、今や世界の大指揮者、芸大指揮科を卒業して間もない山田和樹氏を迎え、モーツァルト交響曲第4番からスタートし、都合8年間にわたって演奏していただきました。2016年には多くの有名な演奏家が集まって頂き、湘南鎌倉フィルハーモニック管弦楽団を結成しました。今回はその25回の記念演奏会となり、地元鎌倉からは教育委員会を通じ、小学校高学年の生徒さんを招待しています。

今後とも当法人や湘南鎌倉フィルハーモニック管弦楽団の活動をよろしくご支援くださいませ。



©Yasukata Eida

### 指揮 木許 裕介 Yusuke Kimoto, Conductor

20代より東南アジアで数々の演奏会を指揮したのち、イタリアを中心に欧州で研鑽を積む。2018年、BMW国際指揮コンクール第1位優勝。以降、世界各地から招聘されグローバルな活動を展開。国内では東京ニューシティ管弦楽団や関西フィルハーモニー管弦楽団、神戸市混声合唱団と共演するほか、全国の大学オーケストラやユースオーケストラの指導育成に顕著な実績を挙げている。音楽を通じた地域創生や国際文化交流など、理論と実践を往復する革新的な活動でも注目を集めており、2022年にはTEDxUTokyoに登壇。現在エル・システマジャパン音楽監督、日本ヴィラ＝ロボス協会会長などを務める。東京大学教養学部を経て東京大学大学院総合文化研究科修了、修士（学術）。

### 湘南鎌倉フィルハーモニック管弦楽団 2023

湘南鎌倉フィルハーモニック管弦楽団は2016年湘南の地に誕生したプロの演奏家によるオーケストラです。日本のクラシック音楽界をリードするメンバーが多数集い、NPO法人癒しの医療を考える会の趣旨に賛同し、会とともに活動しています。

コンサートマスター 長原 幸太	Va 長石 篤志 古屋 聡見 高木 真悠子	Fl 難波 薫 杉山 翼 吉田 杏奈	Tb 伊藤 雄太 鈴木 博貴 藤田 恵輔
Vn1 前田 尚徳 宇根 京子 小野 唯 外園 萌香 向山 亜木子 草川 研二 荒井 ひかる 塩澤 菜美 岡 桃 藤間 由香利 大島 みなみ	武井 麻里子 飯田 香 鈴木 双葉 福田 道子 前田 柚子	Ob 荒川 文吉 浦脇 健太	Tu 田村 優弥
Vc 小川 和久 太田 陽子 福井 綾 藤野 真美 松浦 健太郎 丸山 泰生	Cl 亀井 良信 佐藤 由紀	Fg 柿沼 麻美 西口 真央	Timp 近藤 高顯 Per 小島 光 瀧澤 綾子 古賀 優
Vn2 吉村 知子 三浦 知香子 中島 裕子 高麗 愛子 鈴木 浩司 関口 香穂 木ノ村 茉衣 清水 咲 井上 桐子 大谷 俊哉マリウス	Cb 西山 真二 本間 達朗 宮坂 典幸 高山 雄弘	Hn 伊藤 舜 橋本 宰 土谷 優太 千葉 大輝 國井 沙織	Pf 長堀 拓斗
		Tp 伊藤 駿 古土井 友輝 箕輪 瑠璃子	

### 賛助出演：乃羽バレエ団 芸術監督 乃羽 ひとみ



本拠地は茅ヶ崎で神奈川県を中心に活動。芸術監督「乃羽ひとみ」は演出振付家としての評価も高く、自主公演の他に様々な団体からの依頼公演も多い。また各種学校主催の芸術鑑賞会を通して地域社会に優れた文化・芸術を広める役目も担っている。「乃羽バレエスクール」は1950年創立で伝統があり「乃羽バレエ団附属専門学校」卒業生は多数国内外で活躍をしている。

演出・振付：乃羽 ひとみ

出演：西成 雅衣・並木 まりか・志摩 李々子・鈴木 優・永井 裕美・土佐林 理子・清水 理那・田澤 真帆・二本柳 美波・平木 菜々香・原 美咲・今井 陽香・テッラコーネ 沙夜・和田 菜乙里・浜崎 恵二郎・石川 聖人・松田 耕平

### 小倉 朗 Roh Ogura (1916 - 1990)

#### 管弦楽のためのブルレスク

#### Burlesque for Orchestra

作曲の経緯と曲の性格が作曲者自身の「ノート」としてスコアに記されている<sup>1)</sup>

「1959年の春、NHKの国際局から、祭日などに使いたいから日本風な旋律で景気のいいオーケストラ曲を書くようにといわれた。いくなれば祝典序曲風なテーマ音楽というわけである。しかし、お祭りとかお祝いとか、日本風とかいう注文の前で考え込み、仕上がりは秋になった。

こうしてどこか賑やかな神楽の笛や太鼓に通じる曲が生まれたが、長さも2,3分という注文だったし、祝典序曲でもあるまいといろいろ考えた末、ブルレスクに決めた。」

曲は(途中八分音符2つ、3つ の塊が交互に現れて変拍子に聞こえる箇所も含め)一貫して2/4拍子で書かれた198小節から成り、冒頭指示 Allegro vivo ♩=120、Allargando molto 4小節(2か所ある)以外は、当初の速度で駆け抜け、注文通り約3分で終わる。楽器編成は西洋音楽の伝統に則ったものだが、実際に鳴るのは、お神楽・祭囃子を思い起こさせる日本の音である。バルトークの影響は、作曲家自身も自認するとおりである<sup>2)</sup>。

作曲家は、終戦期の混乱の中で最初の妻を亡くしたが、二人目の妻との間に二人目の娘が生まれた1951年頃、鎌倉名越に居を移す<sup>3)</sup>。爾来、1990年に没するまで、鎌倉人であった。一時ピアニストを目指した次女は小児科医となって、藤沢で20余年間開業していた。父親の作品上演機会の創出に心を砕いていたが、一昨年初病没し湘南鎌倉の名を冠したこの楽団による演奏の場面にその姿を見られないのが惜しまれる。

- 1) 「管弦楽のためのブルレスク」後記 p.29 音楽之友社、1989 (オンデマンド版)
- 2) 「日本の耳」後記 p.196 岩波新書、1977
- 3) 「自伝」北風と太陽 新潮社、1974

(近藤 薫)



チャイコフスキー *Pyotr Ilyich Tchaikovsky* (1840-1893)

組曲「白鳥の湖」作品 20a  
“Swan Lake” Suite Op. 20a

1875年5月、モスクワのボリショイ劇場から白鳥伝説に基づく新作バレエの作曲を依頼されたピョートル・イリイチ・チャイコフスキーは、同年夏から作曲に取り掛かった。当時のロシアのバレエ音楽は、劇場側の割り振った拍子、テンポなどに沿って機械的に曲を付ける一種の職人仕事だったが、チャイコフスキーは筋立て、演出、振り付け、すべて一体となった総合芸術としてのバレエを目指した。全4幕の大作バレエは1876年4月に完成、1877年2月20日に初演されたものの、ダンサーに難があったことや指揮者の力量不足などから失敗に終わる。その後、上演機会のないまま1893年11月6日、チャイコフスキーは53歳で急逝した。すると、ペテルブルグのマリンスキー劇場の振付師マリウス・プティパ (1819-1910) が彼の追悼公演としてこれを部分上演し、さらに弟子のイワノフと共に再構成したプティパ=イワノフ版によって1895年1月27日に全幕復活再演し大成功を収めこのバレエの隆盛の端緒を開いた。本日は抜粋で演奏される。

#### 1.情景 第2幕第10番

ハーブの分散和音と弦のトレモロにのってオーボエが「白鳥の主題」を奏する。やがて全オーケストラによる力強い音楽となり、次いで悪魔を暗示する不吉な主題が現れる。

#### 2.ワルツ 第1幕第2番

王子の成年式で王子の友人たちが踊る華やかなワルツ。

#### 3.白鳥たちの踊り 第2幕第13番の4

ファゴットの低音伴奏にのせてクラリネットとオーボエが二重奏を繰り返す。

#### 4.情景 (オデットと王子のパ・ダクシオン) 第2幕第13番の5

木管とハーブの序奏を経てヴァイオリン、チェロが甘美な旋律を奏する。

#### 5.スペインの踊り 第3幕第21曲

城の舞踏会で披露される各国の踊りの一つ。スペイン起源の舞曲ボレロのリズムにのってエキゾチックなバレエが踊られる。

#### 6.情景 第4幕第28番

絶望して夜の湖に戻ってきたオデットの嘆きが木管と弦楽合奏の対話で示され、白鳥たちの慰めの言葉は弦の緩やかな旋律で表現される。王子が現われてオデットに許しを乞ううち嵐が到来する。ハーブの下降音型とオーケストラの和音で曲を結ぶ。

チャイコフスキー *Pyotr Ilyich Tchaikovsky* (1840-1893)

交響曲第5番 作品64  
Symphony No. 5 Op.64

1877年に交響曲第4番を書きあげたあと、チャイコフスキーはヨーロッパ各地に長期旅行を繰り返しながら、ヴァイオリン協奏曲、ピアノ三重奏曲『ある偉大な芸術家の思い出』、弦楽セレナードなどを発表していった。1888年春、ヨーロッパ旅行から帰国した彼はフロスコエ村の新居に落ち着き、心機一転、11年ぶりに交響曲に着手する。同地の緑ゆたかな環境の中で作曲は順調に進行し8月26日にこの交響曲第5番が完成した。そして、同年11月17日、ペテルブルグで彼自身の指揮によって初演したが、批評家には不評であった。彼自身、パトロネスのフォン・メック夫人に「この曲には捨えもののような不誠実さがあります」と書いているように、あまりにも周到な設計が批評家からは作為的だと受け取られたようだ。しかし、聴衆はこの曲を歓迎し、またその後、モスクワやハンブルグでも再演されて人気を呼ぶようになった。ことにハンガリー出身の大指揮者アルトゥール・ニキシュが採り上げたことで広く普及した。

第1楽章：序奏はアンダンテ、ホ短調、4/4拍子。主部はアレグロ・コン・アニマ、6/8拍子。冒頭、曲全体を特徴づける暗い運命の主題をクラリネットが奏する。主部では3つの主題が絡んで激しい闘争の様相を呈する。

第2楽章：アンダンテ・カンタービレ・コン・アルグーナ・リツェンツァ、ニ長調、12/8拍子、3部形式。ホルンが甘美な旋律を歌い出し、次いでオーボエから憧憬に満ちた副主題が歌われる。中間部の頂点で運命の主題が立ちはだかる。

第3楽章：アレグロ・モデラート、イ長調、3/4拍子、ワルツ、3部形式。暗い運命の連鎖の中でのしばしの憩いのひと時。最後に運命の主題の影がよぎる。

第4楽章：アンダンテ・マエストーソ、ホ長調、4/4拍子-アレグロ・ヴィヴァーチェ、ホ短調、2/2拍子、ロンド・ソナタ形式。序奏は長調だが主部で同主短調に転じる。劇的な展開の頂点で全休止が置かれ、次いで第1楽章の第1主題が長調化されて誇らかに姿を現す。

(萩谷由喜子)

